

高知県金融経済概況

【概 論】

高知県の景気は、緩やかに持ち直している。

前回の概況公表時（12月中旬）以降の県内景気をみると、個人消費は堅調に推移している。観光は持ち直している。公共投資は横ばい圏内で推移している。設備投資は持ち直しの動きが続いている。住宅投資は減少している。この間、製造業の生産は一部で弱めの動きがみられるものの、全体では横ばい圏内で推移している。そうしたもと、労働需給は引き締まった状態となっている。雇用者所得（名目ベース）は着実に増加している。

先行きについては、企業・家計の両部門において、所得から支出への前向きな循環が続くもとで、緩やかに持ち直していくとみられる。ただし、①コスト上昇と価格転嫁の動向、②人手不足の影響と賃金の動向、③海外経済の動向の影響等について、注視していく必要がある。

【各 論】

1. 需要項目別の動向

公共投資は、横ばい圏内で推移している。

発注の動きを示す公共工事請負金額をみると、24/12月は前年を下回った（24/12月前年比：▲31.7%）。

設備投資は、持ち直しの動きが続いている。

2024年度の設備投資額（24/12月短観）は、製造業を中心に前年度を上回る計画となっている（全産業前年度比：+4.1%）。

この間、企業からみた生産設備や営業用設備の過不足感（24/12月短観）は、過剰超となっている（生産・営業用設備判断D. I. <「過剰」－「不足」>：+5）。

個人消費は、堅調に推移している。

大型小売店¹の販売動向は、季節商材の販売動向の振れを伴いつつも、全体としては堅調に推移している。コンビニエンスストアの販売動向は、堅調に推移している。家電量販店の販売動向は、弱めの動きとなっている。乗用車新車登録台数、旅行取扱高は、持ち直している。

観光は、持ち直している。

24/11月の県内の主要観光施設への入込客数（24/11月前年比：▲17.8%＜速報値＞）は、前年を下回った。主要旅館・ホテルの宿泊客数（同：+2.0%）は、前年を上回った。

住宅投資は、減少している。

24/11月の新設住宅着工戸数は、前年を上回った（24/11月前年比：+7.4%）。

2. 生産

製造業の生産は、一部で弱めの動きがみられるものの、全体では横ばい圏内で推移している。

機械は、一部で弱めの動きとなっている。食料品、窯業・土石製品、鉄鋼は、横ばい圏内で推移している。パルプ・紙・紙加工品は、緩やかに持ち直している。

3. 雇用・所得

労働需給は、引き締まった状態となっている。

24/11月の有効求人倍率は、前月と同水準となった（24/11月：1.12倍）。

この間、企業からみた雇用人員の過不足感（24/12月短観）は、不足超となっている（雇用人員判断D.I.＜「過剰」－「不足」＞：▲31）。

雇用者所得（名目ベース）は、着実に増加している。

24/10月の1人当りの現金給与総額は、前年を上回った（24/10月前年比：+6.2%＜速報値＞）。

4. 物価

消費者物価（高知市、生鮮食品を除く総合）の前年比は、足もとでは2%台半ばとなっている（24/11月前年比：+2.6%）。

¹ 県内の百貨店、ショッピングセンター、スーパー等。

5. 企業倒産

企業倒産は、感染症拡大前の水準となっている(24/12月:倒産件数8件<前年2件>、負債総額576百万円<同89百万円>)。

6. 金融

実質預金(銀行、信金、信組)は、前年を上回っている(24/11月末残前年比:+0.8%)。

貸出(同)は、前年を下回っている(同:▲0.5%)。

貸出約定平均金利(銀行、信金)は、前月を上回っている(24/11月:1.249%)。

以 上

【本文中の使用計数等の出所】

- ・ 主要観光施設への入込客数:高知県「月別観光施設利用実績」、新設住宅着工戸数:国土交通省「建築着工統計調査報告」、公共工事請負金額:西日本建設業保証株式会社「高知県内の公共工事動向」、有効求人倍率:厚生労働省「一般職業紹介状況」、現金給与総額:高知県「毎月勤労統計調査地方調査」、消費者物価(高知市、生鮮食品を除く総合):総務省「消費者物価指数」、企業倒産:東京商工リサーチ「高知県企業倒産状況」。
- ・ その他の項目は、日本銀行高知支店が個別に収集したもの。
- ・ なお、利用統計は公表月によって異なる。